

2年目を迎えた「赤い羽根福祉基金」は、社会課題解決の基盤やしくみづくりを支えています。

平成28年8月、中央共同募金会は、企業や個人の皆さまからの社会貢献のご意思を集約した「赤い羽根福祉基金」をつくりました。

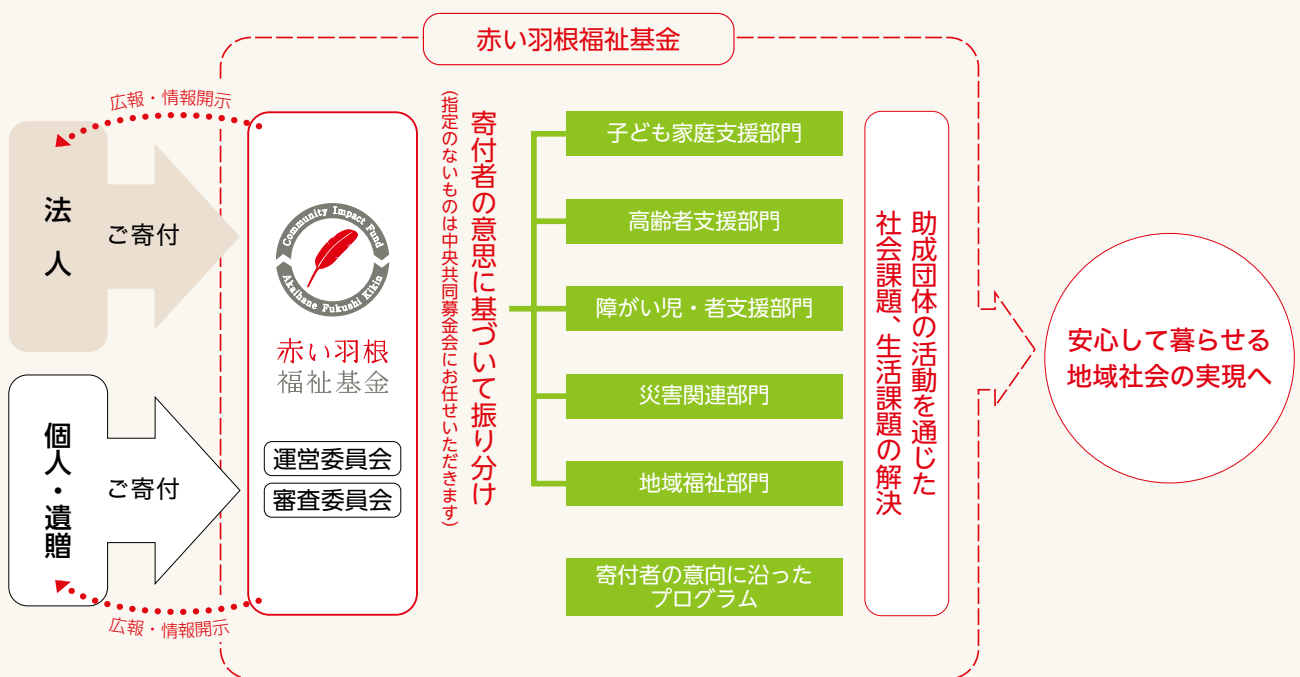
今、本当に地域で取り組むべき課題を明らかにしながら、全国的な波及効果のある先駆的、モデル的な取り組みを集中的に支援しています。

地域においては、少子高齢化、単身世帯の増加、過疎化など社会が大きく変化し、身近な地域で支え合う関係性が薄くなっていく中で、孤立や貧困といっ

た状態が生まれています。そこでは、支援を必要とする人の声が伝わらず、課題が見過ごされ、深刻化してしまう状況も見られます。

2年目となる29年度、赤い羽根福祉基金は、民間の社会福祉事業者・団体やNPO市民活動団体等28団体に対して1億7,284万円の助成を決定しました（継続助成18団体含む）。各団体によって、社会課題解決のための基盤やしくみづくりといった事業が着実に進んでいます。

安心して暮らせる地域社会の実現へ



基金の助成について

対象期間 ▶ 単年度から最大3か年 | 同一事業の実施期間は単年度から最大3か年まで

助成額 ▶ 年間1,000万円を上限 | 各事業・活動に対して年間上限額1,000万円を助成

「子ども家庭支援部門」、「高齢者支援部門」、「障がい児・者支援部門」、「災害関連部門」、「地域福祉部門」の5つの部門の活動を支援しています。

SDGsとは? ▶ SDGsは、持続可能な開発目標として包括的な17の目標を設定して、民間企業、NPO等が関わり「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に、統合的に取り組む目標です。赤い羽根福祉基金は、SDGsのめざす社会の実現に向けた取り組みを進めています。

